

礼拝

令和7年2月17日
7号

「涅槃会（ねはんえ）」

～明るく正しく親切な人になろう（三寶尊）～



今日は、涅槃会の法要をお勤めしました。涅槃（ねはん）とは「吹き消す」という意味をもつ「ニルヴァーナ」というインドの言葉を音写したものです。つまり、煩惱や執着が吹き消された覚りの境地を意味します。それは「智慧あるが故に生死にとどまらず、慈悲あるが故に涅槃に住せず」と表現されます。仏さまの力で迷いを破る働き（智慧）があるので、自分は覚りの世界にずっと存在し続けることができます。しかし「自分だけよければ他の人はどんなに苦しんでいてもかまわない」ということではなく、苦しみを除いて楽しみを与える働き（慈悲心）がある

るので、覚りの世界にとどまらず、苦しんでいるすべての人を救い続けます、というあり方が真実の涅槃であり、仏の覚りなのです。

さて、お釈迦さまは「調（と）った生き方をするためには三つの大切なもの

（仏法僧の三宝）を生活の土台とする事（帰依）が大切である」と教えられました。それが本校の建学の精神である「三宝帰依（さんぼうきえ）」なのです。

○仏（ブツダ）とは、一点のくもりもない大宇宙の真理の中で、私の命が生かされていることへの気づきと受け止めることです。〓明るく生きる

○法（ダルマ）とは、過去から現在そして未来へと、連綿と受け継がれている無数の命が、互いに支えあって、今の私の命が生かされていると受け止めることです。〓正しく生きる

○僧（サンガ）とは、私の命を支えている無数の命に心から感謝し、思いやりをもって互いに助け合い、平和な世の中を築いていこうとする心が大切であると受け止めることです。〓仲良く生きる

この三宝帰依の精神が基盤となつて教育や政治が行われることで、明るく正しく仲良い世の中が築き上げられていくことにつながるのである。それは、聖徳太子がまとめた日本で最初の憲法の第二条に示されています。第一条では、「和を最も

大切なものとし、争わないようにしなければなりません。上下心を一つに合わせ、正しく議論すれば、正しい道に向かい、調和した世界になります。そうすると何事も成就します。」と、和をもつて議論することの大切さを説いています。第二条は、その実現に不可欠な要素を示しています。（聖歌集 後ろから十九ページ）「心から三宝を敬いなさい。三宝とは仏法僧のことです。命あるものは全て、最後は仏になるのですから、誰でも仏になる道を貴ばない者はいません。中にはどうあってもそれを貴ぼうとしない極悪人もまれにありますが、ほとんどの場合、最初からの極悪人、生まれつきの極悪人などはいませんから、きちんと教えれば、誰もが納得して正しい人間になれるのです。だからこそ、仏法僧を敬うことをしっかりと教育していかなければならないのです。」つまり第二条は、議論にあたっては教養のある人になりましよう」と説いているのです。

お釈迦さまがお覚りを開かれてから二千五百年以上の時が流れようとする現在、改めて三宝帰依の精神を生活の基盤とし、全世界が平和になることを願うとともに、みなさんが、本校で学んだことを暮らしに生かし、よりよい行動につなげていける教養のある人になることを心から願います。